

WEEKLY SIGNAL

2020年11月13日(金) 1550号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/16(月)	11/17(火)	11/18(水)	11/19(木)	11/20(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 800	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 32,900	△ 4,000	△ 1,000	+ 2,000	△ 12,000
資金需給	△ 32,100	△ 4,000	△ 1,000	+ 1,000	△ 13,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			国債発行(20年)	国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債発行(変動15年)
オペ期日	CP買入 △ 1,600 国債補充供給 + 300		共通担保(全店) △ 1,600		
オペスタート					
(日本)	GDP(3Q) 鉱工業生産(9月)		貿易収支(10月)		全国CPI(10月)
(海外)		米 小売売上高(10月) 米 鉱工業生産指数(10月) 英 中銀総裁講演	ユーロ圏 CPI(10月) 英 CPI(10月)	EU首脳会議(オンライン)	ユーロ圏 消費者信頼感指数(11月) G20財務相会議(オンライン)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初484兆2,200億円から始まった。その後国債発行や国債買入オペがあったが週を通してほぼ横ばいで推移し、週末6日に483兆6,900億円を越えた。
無担保コールON物は、先週末の地合いを引き継いで始まり、同金利は12日まで△0.034~△0.030%で推移した。一方で積み期最終日である13日は調整を行う金融機関の調達ニーズが強まったことから、同金利は△0.030%となった。
ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.025%~△0.015%の水準で出合が見られた。
来週の主な予定は、国内で7月-9月期のGDP(16日)や10月のCPIの公表(20日)などがあり、海外では10月のユーロ圏・英国のCPI(18日)やオンラインでのEU首脳会議(19日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.040 ~ 0.000
TDB 3M	△0.140 ~ △0.090
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<O P>

今週の入札発行総額は約 5,700億円、週間償還額(約6,000億円)を若干下回った。発行市場では卸売業や電気機器業等で大型の発行は見られたものの、週を通じて発行案件数は少なく、落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末の24兆1,393億円から、12日時点で24兆479億円と小幅減少した。10日に、CP等買入オペが予定より500億円減額し、5,500億円でオフアされた。結果は、按分レート△0.055%・平均落札レート△0.034%と前回(按分レート△0.034%・平均落札レート△0.027%)比で大幅に低下した。発行レートは、先週と変わらず△0.04%~0%近辺での出合いであった。
来週の週間償還額は、5,200億円程度となっている。5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、希少銘柄ではやや強いマイナスレートでの出合いを予想する。

<TDB>

9日の6M950回債(5/10償還)の入札は、最高落札利回り△0.1068%(前回債△0.0982%)、平均落札利回り△0.1128%(同△0.1002%)となり、入札後△0.109%の出合が見られた。
13日の3M951回債(2/22償還)の入札は、最高落札利回り△0.0912%(同△0.0837%)、平均落札利回り△0.0938%(同△0.0878%)となり、入札後△0.117%~△0.11%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.10%~△0.095%のレンジ、6M物が△0.114%~△0.11%のレンジ、1Y物が△0.14%近辺で取引された。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.085%の出合いから始まり、以降レートは概ね横ばいで推移した。短国買入オペがオフアされた12日受け渡しは、△0.095%~△0.085%での取引。新積み期かつ短国3M発行日となる16日受け渡しは、△0.085%~△0.080%とややレートが上昇した。SC取引では、5年145回債や20年174回債のbidが多く見られた。他2年408~418回債、5年137~144回債、10年336~360回債、20年169~173回債、30年59~68回債、40年10~13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。